



日本で初めて発生が確認されたスモモミハバチ *Monocellicampa pruni* Wei の発生生態と防除

山口県農林総合技術センター みぞ 溝 べ 部 しん 信 じ 二

はじめに

スモモの結果樹面積は、全国で3,010 ha、山口県は5 haである（中国四国農政局統計部，2018）。山口県のスモモは庭先果樹として栽培されることが多く、そのほとんどが散在樹である。2019年5月、山口県山口市の露地栽培スモモにおいて、果実が1 cm程度で生長を停止し落下する症状が多発した。果実内には虫糞とハバチ科（ハチ目）の幼虫が確認された。

ヨーロッパには、スモモの果実を加害するハバチ科の種として、black plum sawfly (*Hoplocampa minuta*) と yellow plum sawfly (*H. flava*) が分布しており、これら2種は老熟幼虫までに数果を加害するため、被害が甚大になることもある (TAMOSIUNAS et al., 2014)。しかしながら、日本においてスモモの果実を加害するハバチは報告されていない。

2020年1月に被害樹下の土壌から土嚢を採集し、25℃の室内に静置して羽化した成虫を神戸植物防疫所に送付した結果、中国および韓国で発生が報告されている *Monocellicampa pruni* Wei と同定された。本種は国内未記録種であったため、「スモモミハバチ（仮称）」として特殊報（山口県病害虫防除所，2020）を発表した。本稿では、今後の発生調査および防除の一助とするために、断片的ではあるがこれまでに得られた生態的知見と被害の様態および防除試験の結果についても報告する。本稿の内容の一部は2020年9月に開催された西日本応用動物昆虫研究会・中国地方昆虫学会合同例会において発表済みであり、以降は「スモモミハバチ」と表記する。

本文に先立ち、本種を同定していただいた神戸植物防疫所、調査にご協力いただいた農家の関係諸氏に厚くお礼申し上げます。

I 被害状況

2019年5月から20年6月にかけて山口県内の25箇

A New Sawfly Pest, *Monocellicampa pruni* Wei Attacking Fruitlets of Japanese Plum in Japan. By Shinji MIZOBE

(キーワード：スモモ，スモモミハバチ，新発生)

所のスモモを調査した。樹上において直径1 cm程度で生育停止している果実を探索し、侵入孔および脱出孔（図-1）の有無、および切断して内部の幼虫（図-2）を調査した。その結果、県内25箇所の調査地点のうち19

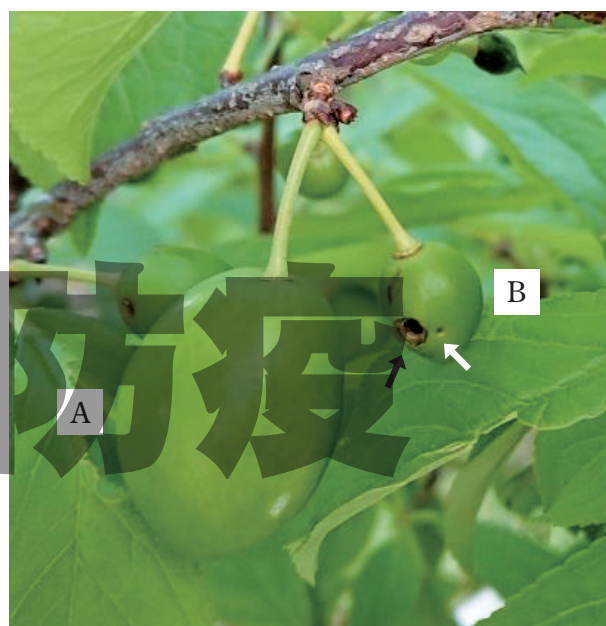


図-1 スモモミハバチ *Monocellicampa pruni* によるスモモ幼果の被害
A：健全果，B：被害果，白矢印は侵入孔，黒矢印は脱出孔を示す。



図-2 スモモ果実内のスモモミハバチの幼虫